

SIAF についてのモヤモヤしたアレ

第 1 回座談会レポート

作成者：主催 高橋弘子

開催日時：平成 28 年 8 月 6 日 19:00～21:30
内容：第 1 回イベント 座談会 in ギャラリー犬養（札幌市）
議題：『まずは札幌国際芸術祭（SIAF）についてモヤモヤしていることを言い尽くしてみよう！』
参加者：9 名（一般参加者 7 名、主催側 2 名）

<一般参加者内訳>

- ・居住地域：札幌市内 6 名、札幌市外 1 名
- ・芸術関連活動：アマチュア作家 2 名、鑑賞のみ 3 名、その他 2 名
- ・年代：20 代 3 名、40 代 2 名、50 代 1 名、無記入 1 名

<札幌国際芸術祭参加状況（2014 年）>

「とくいの銀行 9/27、9/28 企画参加」「ポロクルツアー」「ボランティア」
「とおりがかったついでに見るていど」「未参加」「なし」

<札幌国際芸術祭参加状況（2017 年）>※現在開催されているミーティングなどあれば。

「八月祭、編集会議、ツララボ」「未参加」「考え中」「？」

座談会については事前の参加受付を行っておらず当日直接来場してもらったが、札幌国際芸術祭（以下 SIAF）2014 年開催時および 2017 年開催に向けての準備段階の企画類に実際に参加した・している人、楽しんでいる部分の大きい人、そうでもない人、あまりよく知らない人など、幅広い立ち位置の参加者が集まった。互いに初対面である人が多かったが、忌憚ない意見の交換が行われた。

座談会では話す内容を定めず、自由に話し合ってもらった。内容は下記の通り。

（1）SIAF2014

「会期終了間際に知った」「いつ始まっていつ終わったのか分からなかった」という参加者もいたが、「会期の終わる頃に知ったが実際に参加してみると面白かった」という話もあった。特に「現代芸術は馴染みが薄い、敷居が高い」という感覚を持っていた人が現代芸術の読み解き方を知ったことによって現代芸術により興味を持てるようになったという体験や、「とくいの銀行」のように市民自身が参加出来たもの、ボランティアなどで積極的に取り組み、得る体験の大きかった人には SIAF2014 は強く印象に残っていると感じられた。

ボランティアについては、能力・労力などをそのレベルに関わらず無償で使うこと、ボランティアを大量に使うことが前提の運営への問題提起があるとともに、ボランティアの機会によって得られたこと、ボランティアをやったことによって残るものは何かというところも話題となった。

また、芸術祭の可能性を考える人がいるとともに、芸術祭そのものへの戸惑いが残る人もいた。

○広報・認知

- ・気づかないうちに始まり、気づかないうちに終わっていた。
- ・友達から誘われて、終わる 3 日前に芸術祭を知った。
- ・シャトルバスが出ているのを会期の終わりの頃に知った。
- ・小学生向けのガイドブックが始まってしばらく経ってから出た。もっと早くから欲しかった。
- ・web サイトは情報が多くて見るのに疲れた。また作りとしてかっこよさだけ追求した感がある。勝手に音が出る

のもストレス。

○鑑賞・参加等

- ・近代美術館と芸術の森の展示は観に行った。目当ての作家の作品を観に近代美術館へ行ったが、ホワイトキューブの会場に展示されているのを観て、作品のポテンシャルが失われていると感じてしまった。ホワイトキューブではない会場を選ぶ作家が増えており、それに見慣れていたせいかな。展示の時代性というはあるのか。
- ・「とくい銀行」で預けるのも引き出すのもやった。しかも引き出された。「本当に引き出された！」という楽しさがあった。
- ・ポロクルのツアーに参加して観に行った。道庁と資料館など（SIAF2017の際もツアーが組まれるかも?）。
- ・モネやシャガールだったら観に行こうかと思うが誰がやっているかわからない作家さんがやっても「う〜ん」という感じ。有名ではなくても、地元の知り合いの作家が出ていると「じゃあ行こうかな」と思える。
- ・現代芸術の見方、読み解き方を知ること親しみやすさが増したり、積極的に興味を持てるようになった。トップレベルの解説を聞いたことが良かった。
- ・SIAF2014の出展作家は札幌のことを凄く調べて、考えて作品を作ってくれていた。それが鑑賞者に伝わっていない。
- ・プロセスが重要な作品もある。展示会場に最後に置かれたものだけでは意図が分からない。
- ・解説を受ける機会がなくとも、キャプションを読めば分かるものもあるかもしれないが、読みに行くところまで(鑑賞者が)なかなかいかない。
- ・会期前はスタッフがしっかり伝え、会期が始まってからは現場のボランティアが伝えるのが良いのでは。ただし、ボランティアのモチベーションで伝わり方が変わる側面も。
- ・キャプションの作り方が正攻法過ぎ？ 作品によってはヴィレジヴァンガードくらいのキャッチーさがあるのでは。
- ・道外の多くのアート関係の人が見に来ていた。そういう人たちは作品の見方をよく知っていて、「面白い」という評価をする。興味の示し方が全然違う＝土壌が違う。
- ・伊福部昭さんの展示とアイヌの写真展示（※赤れんが特別展示「伊福部 昭・掛川 源一郎」展）も、解説がしっかりつくと面白い。「一緒に聞きませんか」という声かけでその場の人がたくさん集まった（解説がいない人はそれを選択できる状況であればよい）。
- ・大竹伸朗さんが展示を見送ることになっていた。下準備のために何度の来札したりしていた。運営側の不手際もあったのでは？
- ・だんだん市民レベルに落ちてきている部分もある。こうした市民レベルに参加できた人はラッキー。
→それを知らないうちに芸術祭が過ぎてしまった人は？
- ・9/28まで会期で、10/1には資料館明け渡しということで、撤去の時間が全然なかったと聞いた。片付けの期間もちゃんと考えられるべきでは。
- ・芸術祭と知らないで行ったが、インターネット闇市も面白かった。

○開催の意義

- ・今足りないものが埋まったら札幌は世界に負けない街になる。芸術祭もひとつのきっかけだと考えている。
- ・国際芸術祭は各地で行われているが、どこも似たり寄ったりでは。今更東京のコピーは誰もほしくないのでは。札幌でやる意義は何か。外からバラの花を買ってきて植えるのではなくてここで咲くものがほしい。
- ・札幌の現代芸術の人で「芸術祭をやりたい」と言っている人がいて、上田市長がやろうと宣言した。始まってしまったけどコンセプトなどが後付け、後付け…という感じで、1回やってみてこの先、というのが今の段階。
- ・逆に、広告代理店が作るパッケージの芸術祭にならなかったことは幸い。見た目は美しいが結果同じような物になってしまう。
- ・札幌でアートのマーケットを作ろうとした？ アーティストが食べていける環境作り。市民のレベルにそういう動機は届いていない。

- ・ SIAF2014 は開催できたことがまず成功。という話がある。

○金銭的側面

- ・ 大規模アーティストをたくさん呼ぶのもお金がかかる。何がやりたいのかもっとはっきりしたら予算もつけやすいのでは？
- ・ 自分も納めた税金も使って開催されるのに市民割引などはないかという意見については、受益者負担が原則という指摘が出た。
- ・ 予算がつかないのであれば大口スポンサーをつけるのがよいのではないか。
- ・ あいちトリエンナーレの予算は札幌の芸術祭 10 倍！？「これやりたい」と言ったら「どんどんやって！好きにやって！」と言われるらしい。

○ボランティア

- ・ アートプロジェクトではボランティアを使うことが前提なのだろうか。国内の他の芸術祭でも数多くのボランティアが活動しているが、そもそも「ボランティアを使う」という潮流はどこから始まったのか。
- ・ ボランティアのモチベーションも大切。ボランティアの人の温度も様々。作家の思いをよく知って参加したかどうかでボランティアの温度はまったく違うのでは。
- ・ ボランティアをやりたい人の動機→アートのプロジェクトに関わりたい人？ あまり詳しくない人も。
- ・ 外から見ていると「関わらせてあげてるんだから」という上から目線を感じる。
- ・ 能力と時間と技能をさいている。人の能力を無料で使おうというのがおかしいのでは。仕事の役割分担を分けて、仕事の内容によっては報酬があってよいのではないか（山口の芸術祭ではお金を出すシステムを構築？）。
- ・ やりがいの搾取では？
- ・ 経費（人件費）の節約？
- ・ ボランティアをやっていた人からの話を聞くことがあまりない。
- ・ ボランティアに登録したのち、分からなさ過ぎてリーダー説明会にも参加した。体制作りが大事と思う。体制作りも「誰かがやってくれればいい」と思っているのだろうか。「みんなで作ろう」となれば。
- ・ SIAF2014 ではボランティア登録が 1,000 人を超えた
- ・ ボランティアの打ち上げには 300 人が集まった。「これだけ人数がいたら色んなことが出来るな」と思った。
- ・ ボランティアに登録していたところ、「人数が足りないから誰か来て」というメールがたびたびきた。
- ・ SIAF2014 の会期が始まる前にスケジュール表がきて、2 ヶ月くらいの会期のどこで自分が出られるか書いて、という連絡がきた。そこまで先の予定は分からない。
- ・ 「半日でもいい」というふうにしていたので、1,000 人の登録があっても人数が足りなくなってきた。
- ・ 参加したものがつかみどころのない催しで終わってしまうと使われているほうも辛いのでは。
- ・ 素人っぽいボランティアが多いと学校祭みたい。学生のボランティアが多かったと思う。就活対策か。
- ・ 純粋に子供と関わりたくて参加した人も。「子供達とアートをどうやってつなげよう」と。こういうのがどんどん札幌で立ち上がるとよい。
- ・ やった後、人材として何が残るのか。
- ・ 参加した人がどう思うか。人を使うことも、広告も、いかに効果的にヒットするか。お金はその次なのは。参加している人の自尊心をくすぐる芸術祭であったか。「私はこれに参加しました！」と自慢したくなるもの。
→ 貴重な話を聞けたりしたことの中で釣り合いが取れている人もいる。
- ・ ボランティアとして見ている時に、鑑賞者が作品を感じているところを観察するのが楽しかった。

(2) SIAF2017

SIAF2017 に向けては SIAF ラボの活動、パブリックミーティングの告知など周知のための活動もあるものの、地元のアート活動をしている人にも伝わっていない現状も今はまだある。

パブリックミーティング前で発表されていることが少ない状態であったため、「こうした企画があってはどうか」「間口を広げる工夫をしては」という意見が多いとともに、現代芸術や芸術祭に距離感を持っている市民がもっと芸術祭に歩み寄る意識や努力について、また逆に、出展作品側がどれだけ市民を引き寄せる吸引力を持てるかという双方向のベクトルについて話し合われた。

さっぽろ八月祭については、知らないという人もいるが、この座談会直前に踊ってきたという参加者もいた。プロジェクト FUKUSHIMA! からさっぽろ八月祭までの流れや、大風呂敷の由来などを知らないままに八月祭に参加している人も見受けられたという話もあるが、子供から大人まで楽しめる内容であるため食いつきやすいのではという意見が出た。

○広報・認知

- ・芸術祭に興味はあるが漠然としている。
- ・来年芸術祭があるのか？ 広報していないのでは。テレビで会見の様子が放送されたのは知らない。すでにミーティングなどが走っているが広まっていない。また、限られた人しか興味を持っていない。いかに「タダ」で広報するか。でも札幌市はお金持っているように見えるが。
- ・パブリックミーティングが開催されることを知らない。「こうしたチラシはどこに行ったらもらえるのか？」というくらいの認識。大通の情報ステーションやアートスポットにはだいたいあり、また、SIAF ラボのプロジェクトに参加した時に入手することも。
→効果的にヒットしてない？ チラシのイメージと置く場所と知らせたい対象がずれているのでは？
- ・パブリックミーティングが終わったら SIAF2017 も大々的に広報されるのではないか。今の段階ではあえてあんまりおっぴらにせず、若干ブレーキかかっている感がある。
- ・パブリックミーティングのチラシについて、芸術に興味をもっている人はこのデザインで引っかかるのかという疑問。
- ・SIAF という略称を知っている人が現時点では一部に限られており、SIAF を知っていないと気付かないのでは？
- ・知ってる人を引っ掛けるのであれば何でもいいが、何にも知らない人が参加する、目にするものになっていくので「分かる人だけ分かる」はいかがか。
- ・よその地域の人が探す時に地域名＋芸術祭で探すのではないか。そういう時に探しにくくはならないのか。
- ・ツイッターでも SIAF とは書くが札幌国際芸術祭と書かないので、正式名称でヒットしない。ハッシュタグつけたら？
- ・北海道国際芸術祭 (HIAF) という市民運動もある。札幌国際芸術祭 (SIAF) と混同している人も今回参加しており、そうした人は他にもいそう。
- ・SIAF も HIAF も「何をやっているのか」がいまいち分からずモヤモヤする。
- ・似た名称の活動があるなら、双方、違いをハッキリさせたほうが良いのではないか。

○SIAF2017 に向けてあれこれ思うこと

- ・札幌のアーティストを知るきっかけになってほしい。地元の作家が発表する場所であってよいのでは。「自分の身近にアーティストっていっぱいいるんだ！」と分かるのは楽しい。
- ・客寄せパンダも要る。誰でも見たことある（知っている）ものか、圧倒されるもの。SIAF2014 ではそのインパクトが弱かった。アートに詳しくない人でも知っているアーティストがいると鑑賞者にも親しみやすいのでは。
→パブリックミーティングの作家発表第一弾で「おお～」となれないと。目玉になる人（「聞いたことある！」って人）が出ないと辛いのでは。
→名前を知らない人でも企画内容で引きつけられれば。
→面白いもの作れば SNS や口コミで勝手に広がっていくのでは。

- ・初音ミクやアニメ、漫画などが親しみやすいのではないか。
- ・日本に来る人は日本の漫画アニメが好き人が多い。こうしたコンテンツに飢えているのでは？
- ・芸術の範疇に入れられる物をどんどん入れては。
- ・雪祭りでプロジェクションマッピングで人をたくさん動員したので、例えば豊平館などでプロジェクションマッピングを行うなどはどうか。先日開催された巨大人形劇はインパクトもあるし間口も広がった。
- ・パブリックミーティングのチラシからはあまり面白さが伝わらない？「まち歩きワークショップ」(SIAF ラボ主催)の写が使われているがデザイン上、暗くなっている面白さが伝わってこない。参加した友達の SNS の投稿が面白かった。
- ・他人ごとから自分ごとへ。「編集会議—札幌を編集する—」(SIAF ラボ主催)など、すでに活動が始まっていて誰でも参加できる企画も。
- ・東京アートナイトというイベントは二日間開催で 24 時間、オールナイト。夜中じゅうイベントをやっている。
 - 例えばチカホで 24 時間やるなどしたらなかなかのインパクトがあるのでは。
 - 東京アートナイトではウイスキーがアートに使われていたり、身近なものを使った受け皿も。
 - 夜中に帰りのシャトルバスも出ている。電車が終わったあとにバスを出せる協力体制の固め方。
- ・札幌は歴史が浅いと自分で言うてしまうとそこで終わるのでは。移住してきた人たちがどうやって開墾したか。SIAF2014 の展示で「ゴミを投げる」「手袋はく」の由来の解説もあった。地元では気付きにくいこと。
- ・札幌の強み、札幌らしさもいっぱいある。
- ・ストーリー性は大事。「やります」という伝え方ではなくて「これをやるのはこういう物語があるから」という物語の伝え方は重要。
- ・「参加して」は押し付けがましいが「体験する」はみんな好き。主催側が「参加して」とか「面白いよ!」と言うとしらける。
- ・「ワクワクするやり方を見つけてほしい」という話も聞いた。芸術祭もきっかけのツールに。
- ・「デザインミーティング」(SIAF ラボ主催)の有識者の回があり、募集要項で諦めた、また、「市民参加と言っておきながら結局は有識者で作りたいのか」と怒っていた人もいる。実際には有識者以外も参加出来た。「聞いてみる」というアクションをする人でなければ諦めて過ぎ去ってしまう？
- ・参加しないで語る人がとても多い。評論家みたい。この 2 年 SIAF はとても努力していたと思う。これは他の街ではやっていないのでは？ 自分が足を運べば部分的にでも楽しめたのでは？
- ・トークイベントなどで第一線で活躍している人たちの話を聞ける機会がたくさんあった。でも行ってみるといつものメンバーばかり。
- ・「機会はあるのに市民側から歩み寄ってこない」という話も分かるが、「分からない人が見てもすごい感動を受けてしまう」というもの、それを観る、体験すると「世界が変わって見える」くらいの圧倒的な物を見せなくては引き寄せることが出来ないのではないかと。SIAF2014 の作品も物語性があるって感動出来るようだが、かなりの手順を踏まないと伝わってこない。「読んで分かる」であればアートでなくても良いのでは。
 - 市民の草の根を吸い上げること、圧倒的な作品で引き寄せること。二つのベクトル。
- ・市民芸術祭との連携はしないのだろうか。
- ・人を呼び込むために、観光客誘致という趣が強い。そこにアートを活用するということか。
- ・ターゲットを踏まえて作品をそろえるべきでは。

○さっぽろ八月祭 (2016 年は SIAF2017 プレイメントとして開催。2016 年 8 月 5 日、6 日に北 3 条広場で開催)

- ・さっぽろ八月祭に行ってきた！楽しかった。
- ・八月祭りはこども盆踊りもあってよかった。子供から大人まで楽しめるものがあるとみんな食いつきやすい。
- ・これをどうやって芸術祭につなげるか？ やって楽しんできた人がいることはいいが、踊ってきただけでは…。
- ・何故大風呂敷を敷いているのか？ 初めて知った、という人たちもいる。「何故風呂敷があるのか」が分からないまま踊っている人が多かった様子。
- ・福島プロジェクト (※プロジェクト FUKUSHIMA!) からのつながりがあるってさっぽろ八月祭がある。

SIAF2017 の人選はそのあたりにもよくつながっている。

○公募

- ・ SIAF2017 においては市民から企画を公募した。作品を出すというよりは「アイデア」「事業」「プロジェクト」の募集。今回は札幌市民と作り上げたい模様。
- ・ 提出書類が「企画提案書」「収支計画書」「プレゼンパネル」で、一般市民にはハードルが高い？
- ・ 一次審査を通ったものに関してはコネもある？ 公共の事業にはそういう側面も。ほんとに突き抜けていけば素人のもので採用できるかもしれない。ただし、客を呼ぶためにはネームバリューが必要。
- ・ 公募は残りの 60 は何が出た？
- ・ 市民から集めた意見はどこで閲覧できるか。

○事務局

- ・ どんな人がいるのか？ 市役所と民間企業？ 運営に関してはイベントーはいないということだろうか。
- ・ 事務局の人たちは面白がって作っているのか？ ワクワクしているのか？

(3) 市民レベルの活動

札幌市民における芸術への関心の度合いとしては、年輩の人々は割と美術館などに足を運んでいるということ、また、インターネットに親しんでいる学生だからといって SIAF を認識していると限らない点から、周知の工夫を施す場所はまだある印象を受けた。

札幌市内でもパブリックアートなどかなりの数があるが、日常的には意識されていないのではないかということ、それらの作品についてや作家のことが認知されていないように見受けられるという話もあったが、日常的に目にしている分、興味を引きやすいツールではないかという考えが述べられた。

また、札幌市内および市外の道内他地域においても市民レベルの様々な文化芸術活動があり、現在ではアングラやサブカルといった分野も盛り上がっている。それらが芸術祭に活かされていないのはもったいないのでは、という話題も出た。

○市民開催のイベント等

- ・ 市民運動による某イベントにおいては東京から何組かゲストを呼ぶが、選定基準は「札幌に来た時に札幌の作家と同じ目線で作れる人であること」。ビッグネームも 2 回くらい呼んだが「出て終わり」になってしまう。目線が同じアーティストであれば、その人が札幌のライブを見て楽しんで、自分が東京でやっているライブやイベントに呼んでくれる。そこの交流やつながりを大事にしたい。そういう広げ方もありでは。
- SIAF2014 の時の作家は札幌のアーティストに関心を持っているのか。作家を市内・道内の施設に連れて行くツアーがあってはどうか。

○札幌のアート界限

- ・ 年輩の人は結構美術館に行っている。有名な展示の時は行く。学校の美術部の子も美術館の展示は興味を持って行くが、中学・高校の子に芸術祭の話をして分らない様子。
- ・ 札幌の芸術シーンは限られた人が楽しんでいる。草の根でも「身内で消費している感」が強い。
- ・ 町内会や PTA に参加して、「自分はどんな活動をやっている」とアピールすると結構広がる？ 老舗のそば屋、印刷屋にはそれまでの人脈の蓄積がある。
- ・ 札幌市内に「アートを観るのにいつでも行ける場所」はあるか。東京はいつでもどこかで色んなものをやっている。芸術祭で出展されるような作品も観られる。
- 札幌のチカホの端の黄色いアレ（谷口頭一郎さん作『凹（へこ）みスタディー 琴似川北 12 条西 20 丁目』）。あれは現代芸術では。見たい時に行ける場所で、解説もある。誰でもアクセス可能。せっかくあそこにあるのに

あんまり周知されていないのでは？ しかも札幌出身で第一線で活動されている。そういう人がいることを一部の人が知らないのも勿体ない。

- ・札幌にあるパブリックアートを読み解く、という企画あってもいいのでは。
→すでにあり、マッピングされている。そういうことも一般に知られたほうがいいのでは。既視感のある作品だから興味を持つのでは。
- ・アングラやサブカルが札幌には意外と多い。地元にあるカルチャーなどをもっと活かしては？

(4) 最後に

第1回のSIAF2014が開催されてから2年ほど経過するが、ボランティアなどで積極的に参加した人においては今でも体験が鮮明に思い出される様子があった。SIAF2014をほとんど知らなかったという人においては、2017年に開催されることも知らない、という状況も未だに見られる。また、主催高橋のように、SIAF2014は2会場程度しか観ていないが、その後の資料館でのイベントに参加したことで資料館やSIAFラボに親しんだケースもある。いずれの立場にしてもSIAFに対して様々な思いを抱いており、それに対しての提案もそれぞれが持っている節が見られた。

正直申し上げて、諸事情によりほとんど見切り発車状態で始めた自主企画であるが、今回の座談会において出た「こうした意見の交換をいかに次に活かすか」という点が『SIAF(札幌国際芸術祭)についてのモヤモヤしたアレ』においも重要な課題であると新たに認識するに至った。モヤモヤへの取り組み、解決などについてはSIAFに限らず、SIAFの終わった後も続く札幌・北海道でのアート関連の活動などにも活かしたい。

平成28年8月16日

高橋弘子

<追記>

主催の反省点として、予定時間での区切りをしっかりとつけられなかったために予定時間を大幅に越えてしまったこと、和室と認識して「和室」と告知した場所が実は洋間だったこと、ファシリテーションの技能が弱く、参加者の積極性に頼っていたことが挙げられる。徐々に改善したい。